



注目ポイント

- ✓先週は、トランプ米大統領による関税政策の不透明感や、貿易摩擦の激化による米景気悪化への懸念から、米国株が大幅に下落した。米株安を受けて日経平均も一時大きく下落したが、売り一巡後は自律反発狙いの買いなどが入り、週間ベースではやや上昇した。一方、外為市場では、米景気への懸念から「低リスク通貨」とされる円が買われ、11日には一時1ドル＝146円54銭と、5か月ぶりの円高ドル安となる場面もあった。ただその後は持ち高調整の円売りドル買いが優勢となった。
- ✓今週も米国の関税政策の動向には要注意。また、18～19日には日米で金融政策を決める重要な会合が開催される。日銀もFRBも政策金利の据え置きが見込まれる中で、植田日銀総裁やパウエルFRB議長が足元の景気や物価をどのように判断しているのが注目される。(北田英治)

①マーケット動向(実績データ)

2025年3月10日

～

2025年3月14日

市場・指標			3月10日～3月14日		3月14日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	37,326	35,987	37,053	+166	+0.4%	
	米国	NYダウ(ドル)	42,541	40,662	41,488	-1,314	-3.1%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	23,164	22,258	22,987	-22	-0.1%	

市場・指標			3月10日～3月14日		3月14日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利(国債)	日本	10年(%)	1.575	1.490	1.515	-0.005	
	米国	10年(%)	4.35	4.15	4.31	+0.01	
	ドイツ	10年(%)	2.94	2.77	2.88	+0.04	

市場・指標			3月10日～3月14日		3月14日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		149.19	146.54	148.64	+0.60	
	ユーロ(円)		162.36	158.90	161.69	+1.33	
	豪ドル(円)		94.11	91.82	94.00	+0.65	

市場・指標			3月10日～3月14日		3月14日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート(ポイント)	1,676	1,637	1,675	+21	+1.2%	
	米国	NY原油(ドル)	67.94	65.29	67.18	+0.1	+0.2%	
		NY金(ドル)	3,017	2,883	3,001	+87	+3.0%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年3月17日 ~ 2025年3月21日

 株式

もみ合いか

 日経平均
【予想レンジ】 36,700 円 ~ 37,700 円

- 先週の日経平均は小幅ながらも4週ぶりに上昇。11日には米景気の先行き懸念を背景に前日の米国株が大きく下落した流れを受けて、東京市場でも幅広い銘柄に売りが広がった。日経平均は取引時間中に半年ぶりに3万6,000円を下回る場面もあった。ただ、売り一巡後は自律反発狙いの買いなどが入った。週末14日には、米国株と比べた日本株の底堅さに着目した買いが入り、日経平均は上昇した。
- 今週の日経平均はもみ合いか。米トランプ政権の関税政策の動向には引き続き要注意。今週は日米で金融政策を決める会合が開催される。日銀もFRBも政策金利の据え置きが見込まれる中で、植田日銀総裁やパウエルFRB議長の発言が注目される。日米の会合を無難に通過すれば目先の材料出尽くし感から日本株が上昇する可能性もある。


 金利
(国債)

長期金利はもみ合いか

 10年国債利回り
【予想レンジ】 1.470 % ~ 1.570 %

- 先週の長期金利は乱高下の末、週間ベースでほぼ横ばい。週初10日には前週末の米長期金利の上昇を受けて国内債にも売りが広がり、10年債利回りが1.575%と16年5か月ぶりの水準に上昇した。しかし11日には日本株の下落を受けて債券が買い戻され、10年債が一時1.49%まで低下した。その後、13日には植田日銀総裁の発言をきっかけに日銀の利上げ継続が改めて意識されて長期金利が上昇した。週末14日には、前日の米長期金利の低下を受けて国内金利も低下した。
- 今週の長期金利はもみ合いか。注目は日銀の金融政策決定会合(18~19日)。金融政策の現状維持が見込まれる中で、植田総裁の記者会見が焦点。総裁が今後も利上げを継続する姿勢を示しながらも、早期の利上げを示唆しなければ、長期金利への影響は限定的か。


 為替
(米ドル)

円強含みでのみみ合いか

 米ドル/円
【予想レンジ】 146.00 円 ~ 150.00 円

- 先週のドル円は週間ベースでやや円安ドル高となった。週初10日には米国景気の後退懸念が強まり、「低リスク通貨」とされる円が買われた。翌11日の東京市場では一時1ドル=146円54銭と、5か月ぶりの円高ドル安となる場面もあった。ただその後は、利益確定や持ち高調整目的の円売りドル買いが優勢となった。
- 今週のドル円は円強含みでのみみ合いか。米トランプ政権の関税政策に対する懸念から、引く続きリスク回避の円買いが入りやすいと予想される。今週は18~19日にFOMCが開催される。政策金利の据え置きが見込まれる中で、注目はパウエル議長の記者会見。インフレへの警戒から追加利下げに慎重な姿勢が示されれば、ドル買い圧力が高まる可能性も。



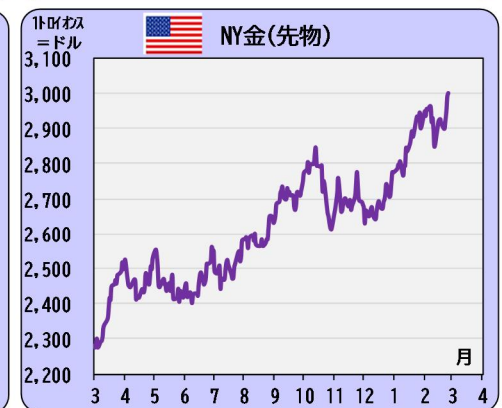
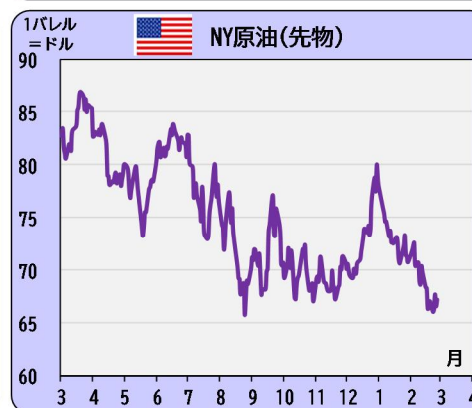
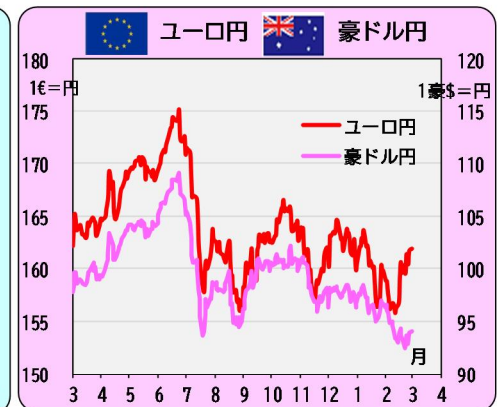
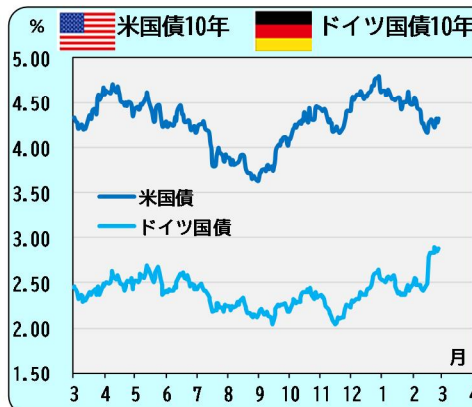
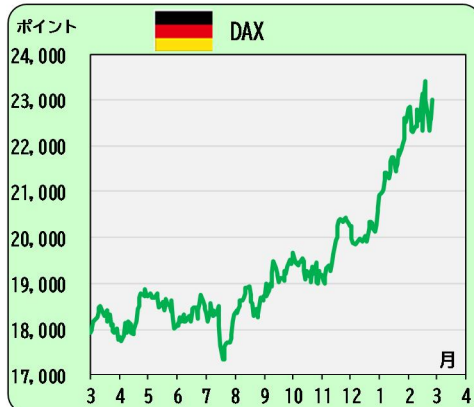
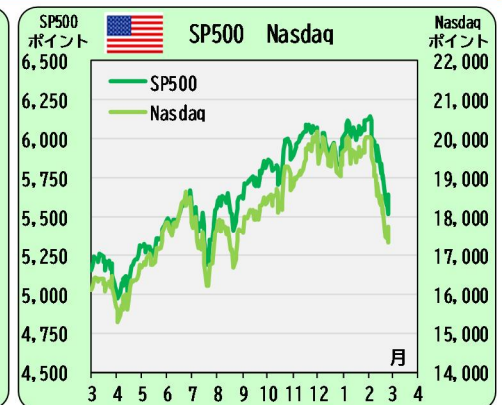
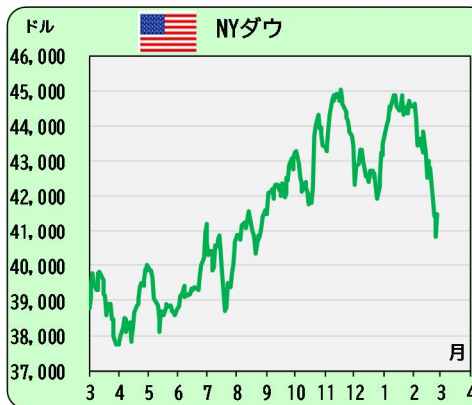
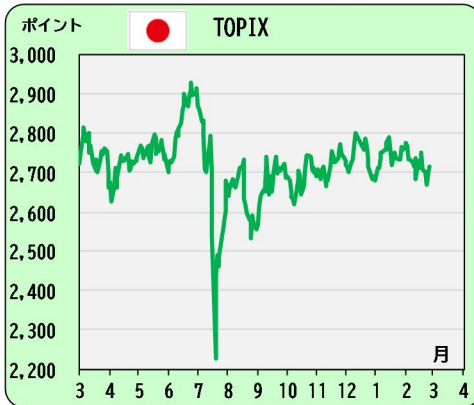
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
3/17(月)		米国: 小売売上高(2月)
3/18(火)	日銀金融政策決定会合(~19日) 第3次産業活動指数(1月)	米国: FOMC(~19日) 米国: 鉱工業生産指数・設備稼働率(2月)
3/19(水)	植田日銀総裁会見 貿易収支(2月) 機械受注統計(1月)	
3/20(木)	祝日(春分の日)	米国: フィラデルフィア連銀景気指数(3月) 米国: 中古住宅販売件数(2月)
3/21(金)	CPI(全国)(2月)	



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。